

東日本大震災から何を学ぶか？ 防災講演会



■日時 **10**月**4**日(土) 10時45分～12時30分

■場所 洞爺湖文化センター

■講師 片田敏孝群馬大学広域首都圏防災研究センター長
同大学大学院理工学府教授

「学校・家庭・地域で取り組む命を守る防災」



片田敏孝氏
PROFILE

昭和35年 岐阜県生まれ。豊橋技術科学大学大学院博士課程修了。災害への危機管理対応、災害情報伝達、防災教育、避難誘導策のあり方等について研究。釜石市においては、平成16年から児童・生徒を中心とした津波防災教育に取り組み、地域の災害文化としての災いをやり過ごす知恵や災害に立ち向かう主体的姿勢の定着を図ってきました。53歳

東日本大震災から約3年半が経過しました。同震災では、東北を中心に甚大な被害をもたらし、洞爺湖町もホタテ養殖施設と漁具などに大きな被害がありました。

町では、この大震災後、津波被害を想定し、津波ハザードマップを作成して全戸配布したほか、昨年10月には、初めて津波避難訓練を町民の参加により、実施してきました。

津波で多くの方が亡くなった中で、片田教授の教えを受けた釜石市の小中学校の児童生徒の多くが被害を逃れ、「釜石の奇跡」として全国的に注目を浴びました。これは、「津波てんでんこ」の教えを守り、防災訓練を重ねてきた結果と言われています。

今年度は、この防災訓練を長年指導してきた群馬大学大学院教授片田敏孝氏を講師に迎え、防災講演会を行いますので、多くの町民の皆さんの参加をお願いします。



東日本大震災で被害にあった住宅

津波てんでんことは

「てんでんこ」は「てんでんばらばらに」の意味。もともとは自分だけでも高台に逃げろという考え方を示していました。これまで幾度も経験してきた災害から学んださまざまな思いがこの言葉に込められ、現在の三陸地方では自分の命は自分の責任で守れという教訓として使われています。

津波避難訓練

太平洋沿岸に伴う津波災害を想定し、地域住民や防災関係機関との連携を確認することで、あらためて地域における防災対策の強化と防災意識の向上を図ります。町民皆さんの参加をお願いします。

■日時 10月4日(土) 9時～10時

■対象 津波浸水予測地域住民
虻田1～4区・7区・8区・入江1区・
入江3区(JR線路から海側の世帯)
虻田5・6区、入江4区、青葉1区一部

の世帯(JR線路付近の世帯)

- 想定 9時に十勝沖を震源とする地震発生(洞爺湖町震度4)。防災無線で本町地区と洞爺湖温泉地区に訓練放送。
- 各内容・情報伝達訓練(防災無線・広報車・消防車両による情報伝達訓練)
・住民避難訓練(指定避難所までの徒歩による避難)
・防災对本部会議訓練(想定される各班の内容報告及び決定事項等の確認)
- ◆津波避難訓練後、片田敏孝群馬大学教授の講演会を開催します。